吉田南中だより

令和６年２月２９日
鹿児島市立吉田南中学校

吉田南中学校ＨＰ

３月の主な行事

３月					
日	曜	行　事　内　容	日	曜	行　事　内　容
1	金	学年朝会　PTA評議員会	13	水	学級専門部会　クラスマッチ（２年生） 公立高校合格発表　部活動あり
5	火	1年生：環境学習　2年生：ｷｬﾘｱﾃﾞｰ 公立高校入試（～６日）	14	木	職員会議
6	水	クラスマッチ（１年生）	15	金	生徒会専門委員会　箏の体験学習（１年生）
7	木	学年朝会　クラスマッチ（３年生）	19	火	生徒朝会
8	金	同窓会入会式（３年生） 卒業式予行　PTA理事会	20	水	春分の日
			22	金	学年朝会
11	月	卒業式準備　部活動中止	25	月	修了式　離任式　ＰＴＡ送別会
12	火	卒業式　部活動中止	26	火	春季休業（～４／７）

※４月の主なＰＴＡ行事　８日（月）始業式／入学式　10日（水）２・３年生　ＰＴＡ役員決め
12～19日　三者相談　26日（金）ＰＴＡ総会・学年学級ＰＴＡ・ＰＴＡ歓迎会
5月2日（木）ＰＴＡ専門部会

ある日の生徒朝会から　～「振り返り」のススメ

２月２７日朝，生徒朝会が行われました。生活副委員長の吉田君のあいさつでは，「『揃える』を意識して行動しましょう」と，日々の生活を振り返って，本校伝統の『揃える』を共通理解させようとしていました。

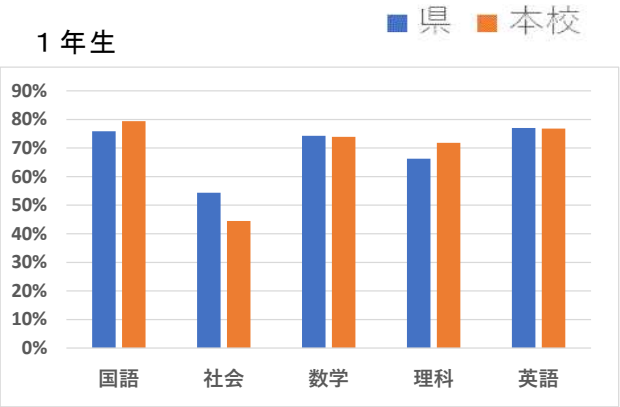
図書委員会の「多読賞」紹介・表彰が行われたあと，執行部と専門部長から３月の活動目標について説明されました。その中では「学校生活も３年生が残り○日，下級生は△日です。残り時間を大切にしましょう。」と，残りの時間を意識させる呼びかけがなされました。続いて学芸委員会からは，学年末テストの学習時間調査の結果を振り返り，平均時間が少なかった学級は、『金曜日の学習時間』が他クラスに比べて少なかったことを意識させようとしていました。執行部は能登半島地震の募金活動を振り返り，協力に対する感謝を述べました。

一貫して生徒たちの活動・報告の言葉には『振り返って、これからを意識させる』ことが目的だったように思います。これはあたりまえのようでいて，意外とできていないものです。アイデアを出して，活動して，それで終わりにならない、『振り返りと次への意識』がなされることで，『自走する生徒会』が実現できるのだなあと感心に思うことでした。

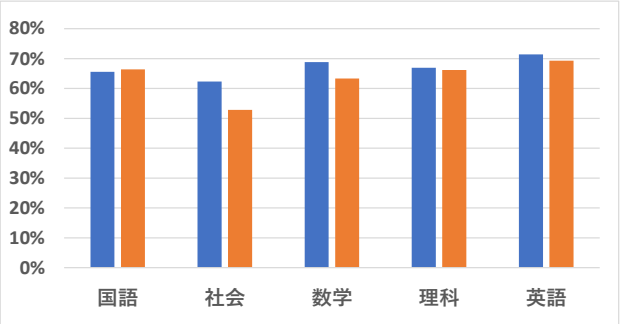
令和５年度　学習定着度調査

令和５年度鹿児島学習定着度調査の結果をお知らせします。本校では結果を分析・考察して授業改善や個別指導に取り組んでいきます。保護者の皆さま，家庭での予習・復習の大切さについて，引き続き御指導ください。

１年生



２年生



学校の取組	
国語	・「行書の特徴，表現技法，部首」の練習問題に取り組み，定着を図る。 ・「話す聞く」の単元において，互いの発言を結び付けて考えをまとめたり，事実と感想，意見を区別しながら話の構成を工夫したりする授業を取り入れていく。 ・自分の考えをまとめる際に，意見と根拠を結び付ける「理由付け」を意識させる。
社会	・Web問題や鹿児島県定着度調査の過去問にある内容を追求する場面を，授業の中に取り入れる。 ・基本的な語句について，毎時間の小テストや，授業内でくり返し確認することで定着を図る。
数学	・テスト返却時に解説を行い，復習の時間を確保する。通過率の低い問題を長期休みの課題やテスト等で扱い，繰り返し取り組ませる。解説プリントを見たり，友達に教えてもらったりしながら，もう一度解き直す学習を行う。 ・新しい単元に入る前に，既習事項とのつながりを意識し，通過率の低い問題の復習を行わせる。
理科	思い込みで解かないように演習を増やし，リード文をしっかり読み取り，問題に慣れさせる。定量を問う問題は，問われている過程をしっかりと理解して，モデルを用いた式や化学反応式を使ってイメージをもつようにさせる。また，重要語句の確認テストを増やし，基礎の定着を図る。
英語	・ 授業の中で基礎的な英単語や文法の定着を図っていく。 ・ 授業だけでは不十分な教科書の音読を家庭学習に位置付ける。 ・ 聞いたり，読んだり，話したりしたことを「書く」ことにつなげていき，まとまりのある英文が書けるように段階的な指導を行う。

ぼっけもん

勘違いから，思わぬことが起こることがあります。
最初の実力はそれほどでもないのに，思いを貫くことで努力が積み重なり，それが大きな成果につながることがあります。

ニューヨーク在住の日本人の方が書かれていた本を読んでいましたら，「英語の実力が完全に付くまで，英語が使えないというのであれば一生，英語はしゃべれないということになる。ちょっとでも基本的な会話が使えるようになったら，どんどん使ってみましょう」ということが書いてありました。日本語で言えば子供たちは幼児の頃から使っているので，稚拙な表現であっても思い切って使っていくうちに，まわりの方々が支えつつ上手になっていくという感じでしょうか
この本の著者は，ニューヨークのことを日本人の視点で本を書こうと，まず「思った」から，「外に出れば，何か書きたいことに出会い，出会った人たちがパソコンの画面の上で勝手にしゃべったり動いてくれているようだった」とも述べておられます。何かを始めようと思ったから，アンテナが高くなり，目の前にいろんなことがやってくるという感覚でしょうか。

鹿児島には，「ぼっけもん」という言葉があります。「怖いもの知らず，大胆な人」という意味で，そういう人を愛情を込めて呼んでいるようです。
場合によっては準備も大切ですが，やりながら考えつつ実行し，修正していく実践もあることもあります。それはそれで楽しそうです。面白そうです。
まず，自分で何かをやってみたいと「思う」ことが，楽しく生きる秘訣のようです。

（参考：「ニューヨークのとけない魔法」　岡田　光世著　文藝春秋）

校長　塚元　宏雄